



KSU 産×学

九州産業大学
産学連携紹介冊子

文 × 理 × 芸



KSU
九州産業大学
KYUSHU SANGYO UNIVERSITY



ZOKEI
九州産業大学
造形短期大学部
KYUSHU SANGYO UNIVERSITY, ZOKEI
JUNIOR COLLEGE OF ART AND DESIGN



#マーケティング
#企業経営
#国際ビジネス

#建築・意匠
#防災・耐震
#インテリア

#グラフィックデザイン
#イラストレーション
#商品企画開発

#地域連携産業
#産業経済
#金融・公共

#ものづくり
#IoT・情報通信
#再生可能エネルギー

「九産大」って 何ができるの？

What can Kyushu Sangyo University do?

A. なんでも All できます！

#文
#理
#芸

九州産業大学は、文系・理系・芸術系の10学部5研究科を擁する総合大学です。1万人を超える学生と約400人の研究者が一つのキャンパスに集い、分野の枠を越えたコラボレーションが日々生まれています。この多様性こそが、柔軟で創造的な産学連携を実現する、九産大ならではの強みです。

教授も学生も
たくさんいるから、
多様な分野に対応できる！



#プロダクトデザイン
#空間演出
#ファッションデザイン



あれも！これも！
ぜんぶできる！



#医薬品・化粧品
#機能性食品
#バイオテクノロジー



文理芸が
そろっている！



#絵画・彫刻
#メディアアート
#マンガ



#心理学
#子ども教育
#健康・スポーツ



文系

商学部

- # マーケティング
- # 企業経営
- # 国際ビジネス



経済学部

- # 地域連携産業
- # 産業経済
- # 金融、公共



国際文化学部

- # グローバル
- # 言語と文化
- # 日本文化の追求



地域共創学部

- # 観光
- # 地域づくり
- # 地域の文化



人間科学部

- # 心理学
- # 子ども教育
- # 健康、スポーツ



01 学生視点で企業を見つめる採用戦略提案

三菱自動車工業(株)
九州三菱自動車販売(株)



商学部
安照 卓 教授
脇 夕希子 准教授

学生から見た「選ばれる会社」とは？

本プロジェクトでは、学生が企業の採用活動における課題を実地調査やアンケートを通して抽出し、「学生に強い興味を持ってもらえる『採用活動』とは何か」、「企業の情報収集の際に最も信頼できる媒体や手段は何か」、「就活生にとっての『やりがい』とは何か」、「競合他社と比較し、条件が悪い場合でも『魅力訴求』ができる会社とはどんな会社か」などをテーマに、具体的な採用戦略の提案を行いました。



1年間にわたる取り組みを通じて、企業にとっては若者視点の斬新な戦略ヒント

を得る機会となり、学生にとっては実践的な学びの場となりました。

中には、本プロジェクトを通じて九州三菱自動車販売へ就職した学生も生まれるなど、教育とビジネスをつなぐことで、地域産業の課題解決と人材育成の好循環が生まれています。



02 スポーツチームの潜在的価値を可視化

NextStairs(株)



人間科学部
萩原 悟一 教授

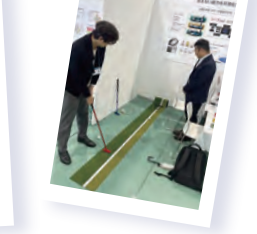
AI×脳科学が導く新時代のスポーツマーケティング

本プロジェクトは、観戦者の感情や認知反応を数値化し、スポンサー価値やブランディング効果を客観的に把握できる新たな手法を開発・実証するものです。

従来、スポーツチームの経済的価値は、チケット収入や放映権料、SNSのフォロワー数といった定量データによって評価されることが一般的でした。しかし、実際には観戦者の体験価値やブランドに対する心理的印象が、チームやスポンサーに対する好意や購買行動に大きく影響することが知られており、これを可視化する新たな評価手法の確立が求められていました。

こうした背景のもと、本プロジェクトでは「スポーツ

価値の可視化」に向けて、スポーツ観戦が脳に与える影響やスポンサーへの認知・記憶・イメージ形成プロセス等をAIと脳科学を活用して科学的に明らかにし、地域スポーツの持続的発展とスポンサー価値の向上に貢献することを目指しています。



03 大牟田まちなか再生プロジェクト

大牟田市
大牟田市商工会議所
UDC OMT.
(アーバンデザインセンターおおむた)



地域共創学部
田代 利恵 教授

学生が考えるまちづくりのビジョン

地域共創学部の学生が、大牟田市と大牟田商工会議所、UDC OMT. 主催の「大牟田まちづくりデザインコンペ」に参加し、学生ならではの発想でまちなか再生の提案を行いました。九州大学、帝京大学、有明高専とともに参加した本学学生は、3日間の現地合宿を行い、中心市街地のフィールド調査や市民との対話を通じて地域課題に向き合いました。



その後に開催された公開審査では、三池鉄道廃線跡を活用した「炭鉱ロード」案が「未来ビジョン賞」と「市民賞」をW受賞。さらに空き

ビルを学生シェアハウス化する「まなべ荘」も「まちなか再生賞」に輝きました。

今回のコンペを通じて、学生たちは地域の課題に対して主体的に向き合い、具体的な提案を生み出す貴重な経験を積みました。田代研究室では、今後もワクワクするまちづくりに取り組んでいきます。



04 若者向け 麴(こうじ)商品の開発

麴家
遠賀信用金庫



商学部
方 慧美 准教授

麴の魅力若者のセンスでプロデュース

プロジェクトのテーマは「若者が手に取りたくなる麴商品」。健康志向が高まる中で、発酵食品への関心も広がりを見せていますが、麴は「甘酒」や「味噌」のイメージが強く、若い世代には少しハードルが高い存在。そこで学生たちは、市場調査やアンケート、味噌づくりの体験を重ねながら、ターゲット層のニーズを細かく分析しました。その結果見えてきたのは、「手軽に楽しめて、ちょっとおしゃれで、健康にもいい」商品への期待感。ペルソナ設計を行い、スイーツ感覚で楽しめる麴



スムージーや、洋食にも合う麴入り万能調味料など、若者目線の試作品を次々に発案しました。

このプロジェクトは、遠賀信用金庫のサポートを受けながら進められ、産・学・金が一体となった連携モデルとしても注目を集めました。



理工系

理工学部

- # 人工知能・AI
- # アプリ・ゲーム開発
- # 半導体・電子デバイス
- # ものづくり
- # IoT・情報通信
- # 再生可能エネルギー

生命科学部

- # 医薬品・化粧品
- # 機能性食品
- # バイオテクノロジー
- # 食品開発
- # 味覚評価
- # 機能性材料

建築都市工学部

- # 建築・意匠
- # 防災・耐震
- # インテリア
- # リノベーション
- # まちづくり
- # 景観デザイン

01 アグリ・アシストロボットの開発

(株)undermountain × 理工学部 牛見 宣博 教授

九州の農業をロボットの力で支えたい

農業の負担軽減に向けて大手企業を中心に農業のスマート化に向けたロボット開発が進められていますが、これらの多くは北海道のような広大な農地を前提としており、九州の狭く傾斜のある中山間地域では使用が難しい、あるいは導入コストが高く小・中規模農家には現実的でないといった課題がありました。そこで本プロジェクトでは、地元の生産者からの要望をもとに、現場の実態に即した技術開発を行っています。

現場の声

- 長時間のしゃがみ・中腰作業や、重量物の取り扱いにより腰痛が発生
- 現状は簡便な補助機械もない
- 手作業工程が多く存在する



具体的には、作業負担が大きい「敷き藁作業」の機械補助をテーマに、傾斜地でも安定して使用できる4輪独立姿勢制御機構を備えた装置の開発に着手。開発にあたっては、大学が保有する土地に圃場を整備し、学生とともに性能検証を行いながら研究開発を進めています。これからは現場の声を起点に、地域農業に本当に役立つ技術を届けていきたいと思っています。



03 フルボ酸による土壌環境の改善

西邦機工(株) × 生命科学部 佐野 洋一 講師

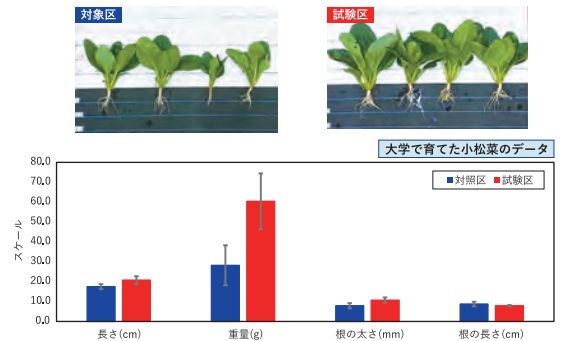
微生物の力で土を再生

本プロジェクトでは、微生物の力を活用し、土壌環境を改善する研究に取り組んでいます。着目したのは、腐植物質の一つである「フルボ酸」。フルボ酸は植物の成長を助ける有用な物質ですが、自然界では微生物が数百年かけてようやく生成する希少な存在です。ところが、本学独自の技術(特許第 6963260号)により、このフルボ酸をわずか2か月で製造することが可能になりました。

現在、このフルボ酸を農業現場で活用すべく、企業や自治体、農業従事者と連携しながら実証実験を進め



ています。これまでの実験では、農作物の成長促進に加え、水稲が丈夫になりジャンボタニシによる食害が軽減されるなど、さまざまな成果が得られています。今後は、より多くの作物への応用を視野に入れ持続可能な農業の実現に貢献していきます。



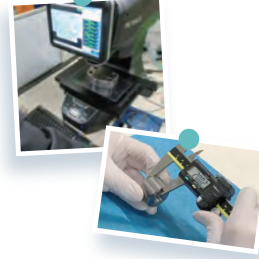
02 AIによるネジの不良品検出

(株)フジテクノ × 理工学部 鶴田 和寛 教授

AIが見つかるわずかな異常

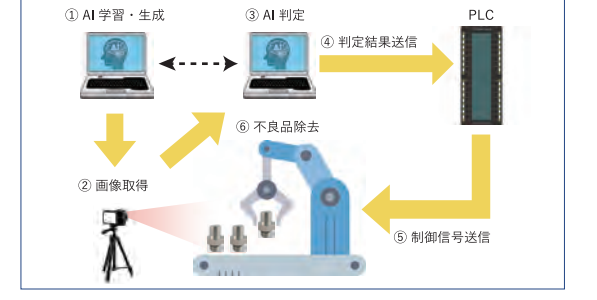
ネジは身のまわりのあらゆる工業製品に欠かせない部品です。しかし、製造や輸送の過程でキズやサビがついてしまうことがあり、その発生頻度はおよそ5万個に1個といわれています。これまで株式会社フジテクノ様では、作業員の目視で不良ネジを選別されていましたが、「見逃し」や「判断のばらつき」といった課題がありました。

そこで本プロジェクトでは、AIを活用した自動検査システムの研究を進めています。具体的には、独自の画像処理技術を使ってネジの



写真データを解析し、AIに学習させることで、人の目では見分けにくい細かなキズや変形も高精度で検出できる仕組みを開発中です。この取り組みにより、不良品の見逃しを減らし、安定した品質管理を実現できることが期待されています。

AIによる不良品検出の流れ



04 木造アパートのDIYリノベーション

ふじの荘 × 建築都市工学部 信濃 康博 准教授

学生のアイデアがキラリと光る

木造2階建てアパート「ふじの荘」(福岡市東区)のオーナーから「空き住戸を学生の皆さんの力で自由にリノベーションしてもらいたい」との相談があり、学生たちが「卒業研究」の取り組みとしてDIYリノベーションを手掛けました。具体的には、現地調査や周辺調査に基づく設計から、材料の選定・見積・購入・搬入・施工など全てを学生主導で行い、約半年かけて2つの住戸を完成させました。

北欧風とレトロ調という異なるコンセプトで仕上げた住戸には、それぞれ風や光の取り入れ方、照明演出など細やかな工夫が光ります。また、共通して押し入れを改装したワークスペースを設けるなど、現代の暮らしに寄り添った提案がなされており、学生ならではの柔

軟な発想と実践力が形になりました。リノベーション後はすぐに入居者が決まり、嬉しい反響を得ることができました。

北欧風のお部屋



レトロ調のお部屋



芸術系

芸術学部 造形短期大学部

絵画・彫刻
メディアアート
マンガ



写真表現
映像・アニメーション
メタバース・XR



グラフィックデザイン
イラストレーション
商品企画開発



プロダクトデザイン
空間演出
ファッションデザイン



インテリアデザイン
情報デザイン
ブランド開発



01 地域とつくる 壁画プロジェクト

イオン九州(株)



芸術学部
ロバート・プラット 教授

大学生が描く香椎の歴史と未来

芸術表現専攻の学生たちがイオン九州と一緒に進めたのは、香椎のまちの魅力を描き出すウォールアートづくり。舞台はイオンモール香椎浜に新しくできた「Kashii iina Terrace」。香椎宮の伝統や、発展するアイランドシティの風景など、地域の“過去と未来”をつなぐコンセプトにあわせて、縦 2.3m×幅 7.3m の迫力ある作品を完成させました。制作前には景観調査や住民アンケートを行い、「自然」「風景」「歴史」の3つをテーマに設定。



さらに公募で集まった小学生20名と一緒にワークショップを開き、子どもたちの手で「昆虫」や「きのこ」を描き込みました。地域の人たちと心を通わせながら作ったこのアートは、今もステージ裏で来場者をあたたかく迎えています。



03 水の大切さを伝える 学習動画の制作

福岡地区水道企業団
福岡市教育委員会



芸術学部
星野 浩司 教授

映像で届ける水と暮らしのものがたり

地域の子どもたちへ“水の大切さ”を伝えたい。本プロジェクトは、福岡地区水道企業団の設立50周年を記念して、水道企業団・福岡市教育委員会・本学の三者協働で進められました。制作を担ったのは、映像メディアを専攻する学生たち。筑後川や福岡導水の仕組み、過去の湧水の記録などを調べながら、実際にダムや関連施設を視察し、水が私たちの暮らしにどう届いているのかを伝えるストーリーを構築しました。

動画には、ドローンを用いたダイナミックな空撮映像や、子どもたちが楽しみながら学べるクイ



ズ形式のアニメーションを盛り込み、学生目線での気づきや現地調査で得た学びを丁寧に反映させています。水道企業団・福岡市教育委員会の監修のもと完成した動画は、福岡市の「つながるクラウド」で公開され、小学校4年生の社会科授業における補助教材として活用されています。



02 学生が手がけたビール ボトルのラベルデザイン

ゴールドエンブレムフリー



芸術学部
柴村 毅彦 教授

クラフトビールの魅力をデザインで伝える

福津市のブルワリーからの依頼を受けて、芸術学部の学生が3種のクラフトビールのラベルデザインに挑戦しました。プロジェクトの開始にあたっては、ブルワリーの代表からビールの特徴や想いを直接聞くオリエンテーションを実施。その内容をもとに、学生たちは市場に流通しているラベルデザインの傾向やターゲット分析を行い、どんなデザインなら思わず手に取りたくなるか、議論と検討を重ねました。

そして迎えたプレゼンテーションでは、3種のビールの個性を生かした複数のデザ



インを提案。ブルワリーの関係者もその完成度の高さに驚かれる中、それぞれ1つの案が選出されました。その後は、印刷会社との調整を経て、実際の商品ラベルとして無事に採用。現在、学生がデザインを手がけたこのクラフトビールは、スーパーなどの店頭で手に取ることができます。

この部分が光る



04 温浴施設の 再生プロジェクト

篠栗町



造形短期大学部
沈 佑炫 准教授

アートとデザインで“癒しの場”をリニューアル

篠栗町が運営する温浴施設「オアシス篠栗」は2000年の開館以来、町民の健康づくりや交流の場として親しまれてきました。しかし、コロナ禍による一時休館や施設の老朽化により、存続の危機に。そのような中、町から利用促進に向けた魅力発信の協力依頼があり、これに応える形で本プロジェクトが実現。

地域住民の意見を取り入れながら施設全体の魅力向上に向けて、約1年に渡る「オアシス篠栗再生プロジェクト」に取り組みました。手掛けたのは、屋外モニュメント、脱衣所のインストー



ション、襖に施されたパブリックアート、地元産業のPRを兼ねた鏡広告、若年層をターゲットにした限定グッズなど多数。学生たちの熱い想いと創意工夫が詰まった作品の数々は、訪れる人々に癒しと発見を届けています。



手厚い 産学連携 支援

「相談してみてよかった」

そう思っただけの産学連携を、
九産大が全力でサポートします。

本学では、専任の産学連携担当(URA)を配置し、課題の整理から研究者とのマッチング、プロジェクトマネジメント、そして社会実装までを一貫してサポートしています。

地元企業との連携実績は、九州の大学の中でもトップクラス。文系・理系・芸術系の多彩な研究シーズと、現場に強い実践力を活かした柔軟な対応が、九産大の強みです。



九州産業大学産学共創・研究推進本部

がサポートします！



私たちURA(リサーチ・アドミニストレーター)は、研究成果の社会実装や学術的価値の向上を支援するスタッフです。皆さまの想いやニーズに寄り添いながら、研究による課題解決に向けて共に歩んでまいります。

ポイント1 課題を掴む仕組み

産学連携は、企業課題や地域ニーズを察知することから始まります。本学では、課題の発見段階から伴走できる体制を整え、課題の本質把握に努めています。また、金融機関との連携により、相談の窓口も広がっています。



ポイント2 柔軟な対応

産学連携は企業規模を問いません。予算に応じた柔軟な連携設計も可能です。皆様にとって一歩踏み出しやすい産学連携を目指しています。



ポイント3 提案型産学連携

課題やニーズの実情に合わせ、研究成果をどう活かすかを研究者と共に考え、実行可能な形でご提案します。

産学連携には こんなメリットがあります！

課題解決の促進

大学の専門知識や研究成果を活用することで、自社だけでは難しい技術的または社会的課題の解決に繋げることが可能です。

新たな価値の創出

研究者や学生との共創を通じて、新製品・新サービスの開発や事業の高付加価値化を図ることができます。

信頼性向上とPR効果

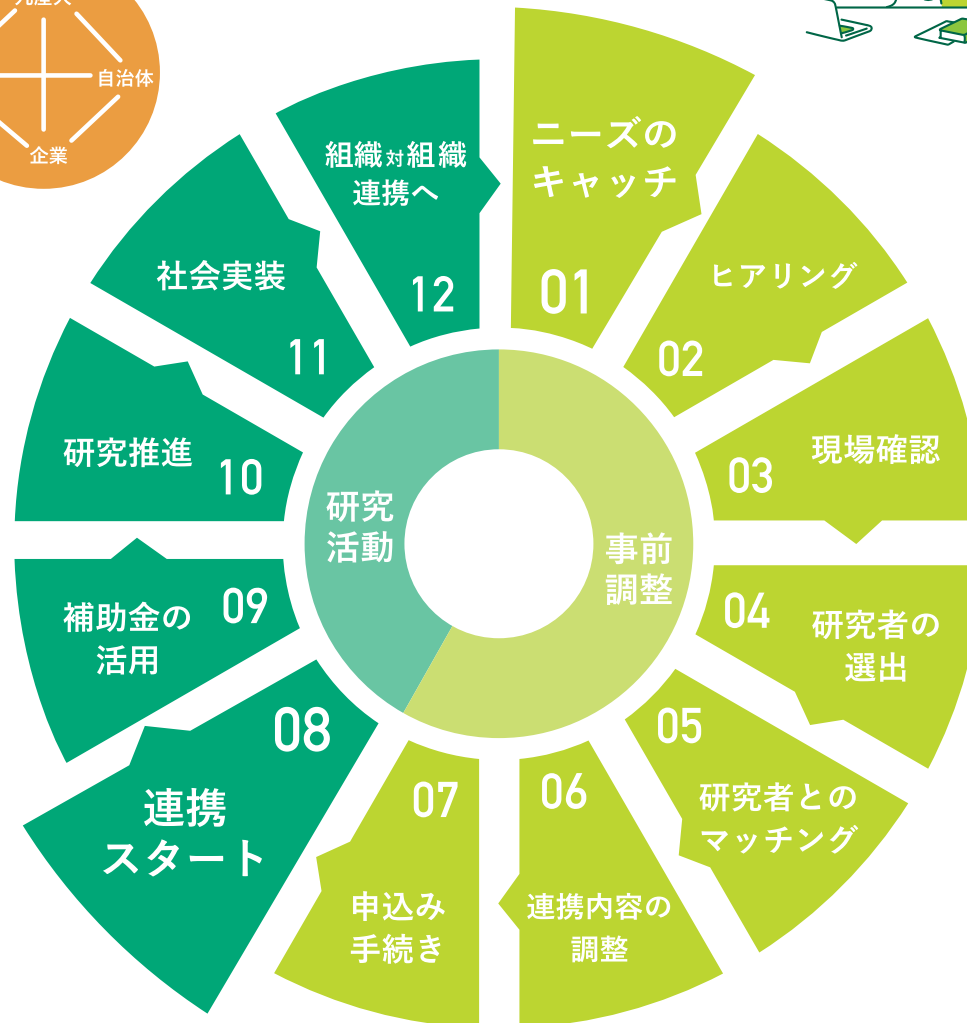
大学との協働は、研究を通じた成果の信頼性向上やPR効果にも期待ができます。

採用への好影響

研究に参加する学生にとっては将来の就職を考えるきっかけになります。

研究活動

事前調整



本学の
研究者情報は
こちら▶

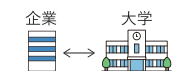


または、
「九産大 教員紹介」
で検索！



● 産学連携のスタイル

共同研究



共通の課題について
分担して研究を実施

契約手続きあり

受託研究



研究の委託を受けて
研究を実施

契約手続きあり

奨学寄附金



寄附を受けて
プロジェクトを実施

申込書の提出のみ

● 必要になる経費

| | | | | |
|------|---------------|--------|------|-----------|
| 直接経費 | 本学教員の人件費 | | 大学負担 | ご負担いただく総額 |
| | 消耗品費 | 機器備品費 | 100% | |
| | 交通費 | 報酬・謝金費 | | |
| | 人件費(学生等) | その他 | | |
| 間接経費 | 大学管理経費 | | 10% | ご負担いただく総額 |
| | 研究遂行を支援する経費 | | 大学負担 | |
| | 共用施設の光熱水費・保守費 | | | |

「大学との連携はハードルが高そう」

「初めてでも相談していいのだろうか」

— そんな不安を抱える企業・自治体の皆さまにこそ、
私たちはしっかりと寄り添います。

